

## 新しい道を探る

## 再開発ビルネットワーク

再開発ビル活性化ネットワーク（藤山正道理事長）は11月29日にウェブ会議システムで2022年度定時総会を開き、22年度活動計画・予算を議決した。

藤山理事長は「再開発ビルを取り巻く環境はより厳しくなっている。四つの課題があると思う。一つは高

齢化。管理組合の運営などに支障が生じている。二つ目は建物の老朽化。商業テナントの誘致に苦勞し、管理費もかさんできている。

三つ目はデジタル化への対応。23年10月から始まる適格請求書等保存方式（インボイス制度）、管理運営そのものの電子化などへの移行がある。四つ目はマンション管理運営に関する国の



認定制度。管理運営の評価が資産価値を決めるだけに対応が求められる。私たちは会員に必要な情報を集め、ノウハウを公開し、再開発ビルの新しい道を探っていく。皆さんの協力をいただき活動を充実させた」とあいさつした「写真」。

22年度活動計画には全国の再開発ビル・商業施設との連携・ネットワークの強化やオンライン研修会の実施、会員専用ホームページのデータベース充実などを盛り込んだ。

総会后、明石地域振興開発（兵庫県明石市）の平林陽代表取締役が、明石市東仲ノ町地区市街地再開発事業の中核施設「アスピア明石」の経営改善とリニューアルについて講演した。

